

**【中学部】会場テスト（Wもぎ・Vもぎ）を使いこなそう！**

中3受験生のみなさん、会場テストの受験を、「受ける→結果（判定）見る→喜ぶ（ショックを受ける）→おしまい」にしていますか？いやいやそれではもったいないですよ！今月は、その会場テストの一般的な位置づけを整理し、高校受験生として各自の活用のしかたをレクチャーしたいと思います。

**【会場テストの一般的な位置づけ】**

- ①東京都内で行われ偏差値の出る試験のため、受験生自身の**学力状況・推定順位が正確に把握**できる
- ②「W合格もぎ・Vもぎ」とも「都立入試そっくり」を中心に、名前の通り「**都立一般入試**」の問題形式・出題傾向・難易度に類似し、「都立一般入試」の**疑似体験**ができる（時間スケジュールは異なります）
- ③中学校内の「確認テスト」や塾内での「志望校判定テスト」とは異なり、他校の受験生と机を並べ、**入試本番の雰囲気**を体験できる
- ④会場が近隣の私立高校中心に設営されるため、高校内の様子がある程度うかがい知ることができる
- ⑤その結果（偏差値）は**私立高校への推薦や優遇を獲得**する上で入試相談に使える場合もあり、**入試結果に大きく影響**する。ですから模擬試験であっても本番同様、全力で取り組んでください  
まずは、上記を知っておいた上で受験をするだけでもずいぶんお得です。

**【会場テストの実践活用法】****①判定だけではなく、どこが定着していないかを洗い出してくれるもの**

テストの帳票が返却されると、たいていの人は判定だけを見て一喜一憂します。気持ちは分かりますが、結果はくつがえりません。ここでは「今回は良かった or 悪かった」などより、どの科目のどの単元ができていなかったのかを確認しましょう。

**②「できた!」と「あつた!」とは全くの別もの**

文字通りで「できた」=『いつ出題されても大丈夫』、「あつた」=『たまたま正解。ラッキー!』ということです。それらを分類するためにも、会場テストを受ける際、自信のなかった問題には△印などを付けておくと復習の時に役に立ちます。

**③復習は模試の結果が返却される前までに終わらせよう**

テストが終わると会場で解説・解答が配付されます。通常帳票が返却されるまでに1週間程度かかりますが、復習はその間に済ませてしまうことをおすすめします。「分からないもの」をその意識があるうちに「分かるもの」にすることが重要です。

**④復習＝納得してからの解き直し**

ここが一番大変で大切です。もらった解答を見て間違いを見つけたら、まず**解説をじっくり読む**こと。もしくは**教科書や参考書でしっかり調べる**こと。自分の間違いを正面から受け止め、何をどう間違えたのか**確認・納得**することです（もちろん上記②番で付けた△印の箇所も）。それをせず再度挑戦しても意味がありません。また模範解答はあくまで模範です。納得したら、**数学なら必ず自分の手で解き直し**をすること。それをしなければ数学は伸びません。その他、**理科・社会の用語や英単語や漢字など暗記すべきことはその場で覚える**ことが大事です。腰を据えて繰り返していきましょう。都立入試まで約4ヶ月です。時間を大切にがんばりましょう！

**【高校部①】高1高2の夏休み明け勉強法**

2学期を迎え早1ヶ月。文化祭などの準備でさぞかし忙しくしている生徒さん多いことでしょう。長かった夏休みも、自分なりに必死に勉強したという人も多いのではないかと思います。文化祭などが一段落すれば、次はお待ちかね(?)の中間テストです。今回は、そんなみなさんに、この9月～10月上旬の勉強方法についていくつかアドバイスしておきたいと思います。

(裏面に続く)

## 【学校の問題集などの基本問題を確実に理解しておこう】

この時期は、基礎学力をしっかりとつけることが重要です。なぜなら、一般的に大学の入試配分は基本的な問題が50%・応用問題が30%・難問が20%と言われています。一般的に、大学受験で合格するためにはおよそ70%の得点率が目安になるので、**基本的な問題で確実に得点し、残りの20%以上を応用問題から得点できるように仕上げていくことが重要です。**応用問題も、**基本的な問題ができなければ得点ができませんし。**

## 【学校の授業を絶対におろそかにしない】

体育祭や文化祭の準備で遅くまで居残りし、次の日の学校でウトウトする人がいますが、これは非常にもったいないです。当然のことながら、高校生のみなさんは圧倒的に学校で過ごす時間が多いので、**学校での勉強時間も有効に使えるかが合否のカギを握っています。**学校の授業もそれなりに受験を見越した内容をやっているはずで、**しっかり集中して授業を受けましょう。**

## 【模試の判定で諦めるのはまだ早い】

学校で様々な模試を受けている人もいるでしょう。しかし、今の時期は思うような結果が出ない人がほとんどだと思います。しかし、**まだまだ諦めるのは早いです。**この「入試インフォメーション」や壁新聞「The Best Express」にも度々書いている通り、**現役のみなさんは、模試では直前まで結果が出にくいものです。**ですから、結果が悪くても、文字通りコツコツと諦めずに、**基本に忠実とした粘りの勉強を行ってください。**

参考 HP <http://fukuumedial.com/examination/>

# 【高校部②】ここで差がつく！面接試験 [16年11月号より再掲載]

## 【面接のタイプを知ろう】

推薦入試は、公募制推薦入試・AO入試・指定校推薦入試の3つに分けられ、**前者2つは倍率が出る（不合格者が出る）入試**となり、**面接はかなり重視**されます。後者は、面接時によほど大きな失態を犯さない限り**ほぼ合格できる入試**になります。

## 【面接官は見抜きます】

「ただか数十分の面接の間で、自分の何が分かるか」と思う方もいるかも知れませんが、**面接官はプロフェッショナルである**ことを忘れないでください。**礼儀や姿勢**はもちろん、目の動きやヘアスタイル、歩き方から座り方まで、**面接官はじつと観察眼を凝らし判断を下します。**人間は身なりや動作に内面がにじみ出るものです。

## 【面接を乗り切る2つの重要ポイント】

### ①プレゼンテーション能力の向上

- なぜその大学なのか
  - なぜその学部・学科なのか
  - 取り組みたい研究テーマとそれを選んだ理由
  - 自分の選んだテーマはどのゼミに該当するのか
  - その学科や研究テーマの現状
  - その専門領域の未来像
  - 自分の未来像
  - 斬新な研究・取り組みなどの紹介や意見
- などをよくまとめておき、自分の意見をきちんと述べられるようにしておきましょう。

### ②学びの観点からの意見を持つ

どのような「結果」を得たいかよりも、**どのような「過程」を送りたいかが重要**です。そのためにはその大学、学部・学科、研究テーマを**強い目的意識を持って選んだことのアピールが必要**です。また**積極的に学ぼうとする観点からの意見**を述べられるようにしておきましょう。「将来の志望がはっきり決まっていない」のはもちろん、「就職のため選んだ」のは結果しか求めていないイメージを持たれるためNGです。

特に①②では、**自分の立場や位置しているところを的確に捉え、将来の指針を明確にした上で、自分の個性や長所を思い起こしてみれば、自ずと内面的な充実を図れるようになる**と思います。その段階になるまでいろいろ考えるのはなかなか大変な作業ですが、「大成功の面接試験」にするためには必要な作業であると言えます。

※参考資料 東進ブックス「大学受験 一目でわかる面接ハンドブック」/ライオン社「面接試験と模範回答」

**【小学部】※機関誌「バーガー」に、ためになる記事が多数掲載されております。今月はどうぞそちらをご一読ください。**